別紙様式

令和5年度　学校評価報告書

小樽市立奥沢小学校
校長　堀　　智行

1　本年度の重点目標

みんな笑顔でぽっかぽか進んで行動おくさわの子

2　自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
1	未来を創る力の育成	確かな学力の育成	国語・算数がわかると回答した児童の割合90%以上にする。	B	授業スタイルを全校で統一し、今年度は交流と振り返りを重視した指導方法を工夫した。国語がわかると回答した児童90%、算数がわかると回答した児童88%であり、算数の目標が若干下回った。家庭学習や放課後等の補充学習を通して、目標達成に向けた更なる取組を進めていく。	◎
		特別支援教育の充実	児童の実態交流を年5回以上行う。	A	・児童の実態交流は年2回の学級経営案交流や毎回の職員会議を通して実施した。(8回) ・特別支援学級に在籍する児童・通級に通う児童の個別指導計画作成率100%、通常学級に在籍する支援が必要な児童の実態や支援の方法等を記した計画表作成率100%	◎
		国際理解教育の充実	外国語(活動)が好きと回答する児童の割合95%以上	B	ALTの有効活用や中学校教諭による専科指導を通して、外国語活動や外国語指導の充実に努めた。外国語が好きと回答した児童が82%であり、目標到達には至らなかったが、3・4年生の外国語活動では、好きとの解答が96%であり、5・6年生の外国語の指導充実に向け、コミュニケーションをとることの楽しさを味わうことを重視した取組を進めていく。	◎
		理数教育の充実	算数が好きと回答する児童の割合85%以上	B	校内研修に位置付け、算数の授業研究を年間を通して行った。算数が好きと回答した児童が76%であり、目標には到達できなかった。学ぶ楽しさを実感できる授業づくりに向けた授業改善を一層充実させていきたい。	◎
		情報教育の充実	情報モラル教室を全学年で実施	A	外部講師を招き、全学年で情報モラル教室を実施した。今後も日常的な指導を通して、SNS等の活用に対する情報モラル意識の向上を図っていく。	◎
		キャリア教育の充実	学年における外部講師や地域施設の活用100%	A	新型コロナウイルス感染症が5類となったこともあり、全学年で外部講師や地域施設を活用し、児童の興味や関心、意欲を喚起することができた。	◎
改善方策		今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国語・算数ともに全国平均を下回った。学力については学年によってもばらつきが見られ、より児童の実態に即した更なる授業改善を図り、主体的に学ぶ意欲を高めていく必要がある。特に算数については、校内研修を充実させ、「算数が好き」と回答する児童の割合を85%以上にする。キャリア教育の充実については、中学校とも連携を図りながら、全学年で継続的に実施していく。				
学校関係者評価委員による意見		・小樽市内でもばらつき見られるようなので、市全体でのレベルアップに向けてもう少し頑張ってほしい。小中連携は、言葉通り一般教諭同士の交流をもっと深めて行くことが重要であり、数字には表れていない取組もあると思うが、次年度も継続して取り組んでほしい。 ・国語、算数の学力向上も大切だが、音楽、体育、図工等の教科も充実させ、子どもたちの人生を豊かなものにしていってほしい。				
2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	「友だちのよいところを見つけようとしている」と回答する児童85%以上	B	教師が率先して児童のよさを捉えることに心がけるとともに、互いを認め合う機会を教育活動の中で意図的に設定してきた。「友だちのよいところを見つけようとしている」と回答した児童の割合は84．6%であり、わずかに目標達成とならなかったが、継続した取組を進めていく。	◎
		ふるさと教育の充実	外部講師や地域の施設等を活用したふるさと小樽に関する教育を全学年で行う。	A	外部講師や地域の施設等を活用したふるさと小樽に関する教育を全学年で行うことができた。	◎
		読書活動の推進	読書を全くしない児童の割合を15%以下にする。	B	本校の司書教諭や図書館司書、学校支援ボランティアが中心になって読書環境を整えるとともに、児童会図書委員会を中心に児童の読書習慣を育む活動を行った。読書をほとんどしないと回答した児童が16%とかなり減ったが、若干目標に到達しなかった。今後は、家庭と連携した取組の工夫を図っていく。	◎
		体験活動の推進	ボランティア活動や体験活動を全学年で行う。	A	児童会中心に赤い羽根共同募金に取り組んだり、校舎敷地内のごみ拾いにも取り組んだ。また、各学年で外部講師や施設を活用するなど、様々な体験活動にも取り組むことができた。	◎
		コミュニケーション能力の育成	対話を意識した授業づくりをしていると回答する教師の割合80%以上	A	算数科を中心に、各教科でペア交流やグループ交流、全体交流を取り入れた授業に積極的に取り組んだ。自己評価では88%の教員が向上したと回答しており、今後も継続的な指導を進めていく。	◎
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「いじめは、どんなことがあってもいけないこと」と回答する児童の割合100%	B	特別の教科道徳を中心に、全教育活動を通じていじめはどんなことがあってもいけないことであることを指導してきた。「いじめは、どんなことがあってもいけないこと」と回答する児童の割合が99%と、わずかに目標に到達しなかった。目標の100%に到達できるよう、今後もねばり強く指導していく。	◎
改善方策		児童を「褒める、認める、価値付ける」取組を今後も継続し、児童の自己肯定感を高めていく。自分に自信がもてるようになると、他者へのかかわり方も変わっていくと思われる。いじめについては、99%の児童が「絶対にしてはいけないこと」と認識している。今後も特別の教科道徳を中心に全教育活動を通じて継続して指導をしていくとともに、残り1%への児童の心に響く指導を工夫していく。				
学校関係者評価委員による意見		・子どもたちだけではなく、周りにいる大人たちも自己肯定感を高めていかなければならない。 ・読書活動では、図書支援ボランティアや児童会活動の成果が出てきている。授業時間の制限はあると思うが、体験的な学習やICT を活用したペアやグループ学習を増やしていってほしい。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	体育が好きと回答する児童の割合を95%以上にする。	B	新体力テストを全学年で実施し、児童の運動に対する意欲付けを行った。また、全学年で統一した準備体操（サーキット）や持久力を高める運動を行ったり、休み時間はできるだけ外で体を動かすように全校で取り組んだりするなど、体力向上改善プランに基づく取組を進めた。体育が好きと回答した児童は93%であり、若干目標に到達しなかった。今後も運動の楽しさを体感できる体育科の授業改善に取り組んでいく。	◎
		食育の推進	朝食を食べてこない児童の割合を0%にする。	B	食育の授業や日常の指導を通して、朝食を食べることの重要性を子どもたちにはもちろん、保護者向けにも学校だよりや保健便りなどを活用して発信してきた。児童アンケートで朝食を「あまり食べない」「食べない」と回答した児童が5%おり、目標を達成することができなかった。保護者の協力が不可欠であり、今後も粘り強く働きかけを行っていく。	◎
		健康教育の充実	早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的生活習慣が身に付いていると回答する保護者の割合90%以上	B	早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的生活習慣が身に付くよう、学校だよりや保健便りなどを活用して保護者への啓発活動を進めてきた。また、長期休業中には生活リズムチェックシートを活用した基本的生活習慣づくりに努めてもらったが、保護者アンケートで、基本的生活習慣が身についていると回答した保護者の割合が87．3%で目標に到達しなかった。基本的生活習慣の確立については改善傾向が見られるが、遅刻してくる児童も多く、今後も粘り強く保護者の働きかけを行っていく。	◎
改善方策		健やかな体の育成については、3項目ともB評価となった。まずは、体力向上改善プランを見直し、児童の体力向上を図っていく。基本的生活習慣の育成や「早寝・早起き・朝ごはん」等の健康教育の充実については、改善傾向が見られるもののまだ十分とは言えない。家庭での生活習慣に関わることであり、あらゆる機会を通して、ねばり強く継続的に保護者へ働きかけていく。				
学校関係者評価委員による意見		・この項目の取組については、保護者の協力・連携が不可欠であり、幼い頃から基礎体力の向上ができていないと大人になってから大変である。学校は、体育以外にも子どもたちが体を動かす機会を減らさずに増やしてほしい。 ・「朝食食べてこない割合を0%」等、目標の設定を見直す必要がある。朝食を用意しない。用意できない保護者がいるかどうかも気になるところである。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	生活リズムチェックシートを2回以上活用する。	A	夏休み、冬休みの長期休業中に生活リズムチェックシートの活用を家庭に呼びかけ2回実施した。毎回基本的生活習慣の確立を目指し啓発活動を行っているが、もう少し活用率を上げるための工夫が必要がある。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	学校支援ボランティアの活用を15回以上にする。	A	図書ボランティア、学習支援ボランティア等の活用が進んできており、年間17回の活用であった。図書ボランティアの活用を通して読書環境を整備し、児童の興味・関心を高める取組を進めてきた。また、環境支援ボランティアを募り、校舎外清掃を児童と共に行うことができた。今後も各種ボランティアへの積極的な参加を呼びかけていく。	◎
改善方策		コミュニティ・スクールを導入して4年目となり、新型コロナウイルス感染症が5類に以降されたことから、ボランティアによる学校支援活動も進んできている。今後も連携を深めながら、各種ボランティアの活動の充実を図っていく。				
学校関係者評価委員による意見		・小樽市はコミュニティ・スクールの活動が遅れているので、取組を強化し充実させてほしい。本来教職員の負担軽減も目的の一つだった施策であったが、負担増になるのであれば本末転倒である。いずれにしても、学校運営協議会委員や学校支援ボランティア等を上手に活用し、子どもたちの教育の充実を図ってほしい。 ・幼保・小との連携も重要なので、協議会委員に幼保の園長を加えることも検討してほしい。 ・コロナも落ち着いてきているので、よりよい学校評価をするためにも、協議会委員が様々な活動や取組を参観できる機会を増やしてほしい。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	全教職員が向陽中学校の研究会に参加する。	A	本校の公開研究会が延期となったため、向陽中学校の教職員の参加が少なくなったが、向陽中学校の研究会には全員が参加し、授業参観及び研究協議通してそれぞれの立場から意見交流を行うことができた。	◎
		教育環境の整備・充実	タブレット等、ICT機器を積極的に活用していると回答する職員の割合80%以上	A	自己評価で職員の肯定的評価の割合は94%であり、目標を達成することができた。今後もミニ研修を行いながらICT活用の充実に努め、授業での有効活用に向け職員間で差が生じないよう、研修の充実を図っていく。	◎
		教職員の資質・能力の向上	全教職員が校外の研修会、研究会に年2回以上参加する。	A	全職員が年2回以上、校外での研修会や研究会に参加し、研鑽を積むことができた。	◎
		学校運営の改善	学校経営改善に対する教職員の肯定的回答率90%以上	B	会議の回数や持ち方、日課表の工夫、校務支援システムの活用など、業務の効率化やスリム化を図った。自己評価で「学校運営が改善したか」の設問で肯定的な回答をした職員の割合が89%でわずかに目標達成とならなかったが、更なる工夫、改善を進めていく。	◎
		学校安全教育の充実	「学校は子どもの安全を守るために努力している」と肯定的回答する保護者の割合を95%以上にする。	B	保護者アンケートによる肯定的回答は93%であり、わずかに目標を達成することができなかったが、日常の感染症対策や熱中症対策の徹底や安心メールを活用しての危険情報への注意喚起、避難訓練や集団下校訓練等を計画通り実施することができた。	◎
改善方策		今後も学校の教育目標実現に向け、育てたい資質・能力を明確にし、スモールステップでの数値目標を掲げて検証・改善サイクルに基づく改善に努めていく。				
学校関係者評価委員による意見		・ICTの活用が進み自己評価も高まってきているが、市内全体として遅れている面もあるので、活用の充実を図ってほしい。 ・働き方改革も重要だが、どう改善し子どもたち還元していくのかという視点も大切なので、教職員も大変かと思うが前向きな気持ちで取組を進めてほしい。 ・能登半島地震等もあり、子どもたちの安全を確保する取組や防災教育が重要になってきているので、積極的に取り組んでほしい。				
社会教育に関連する目標（目標6～8）			図書館、総合博物館、文学館、美術館をそれぞれ年1回以上利活用する。	A	図書館、総合博物館などの施設を、それぞれ年1回以上利活用することができた。	◎
改善方策		今後も図書館や総合博物館の他、利用できる施設の情報を得て、有効に活用をしていく。				
学校関係者評価委員による意見		・市内には、様々な施設等があるので、今後も積極的に有効活用を図ってほしい。				